

C047

西農鳥岳山頂付近のブロツケン現象(静岡県GEO
DATA(27)特集3 : 地学散歩(106))

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡県地学会 公開日: 2023-11-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 狩野, 謙一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/0002000141

C047 西農鳥岳山頂付近のブロッケン現象

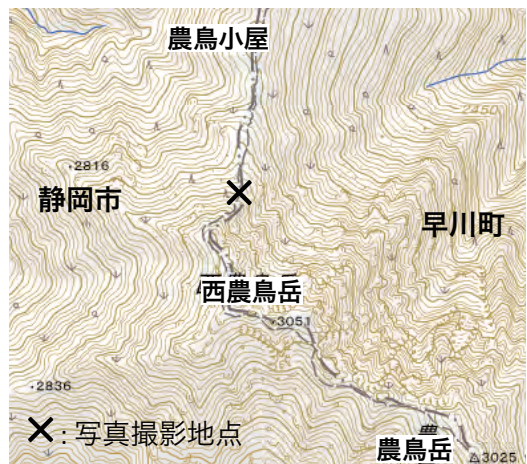


ブロッケン現象（またはブロッケンの妖怪）は、山岳での気象光学現象として良く知られているが、実際に登山中に遭遇することは希である。日本では、この“妖怪”は阿弥陀如来にみなされ、御利益のあるものとされている。

この現象は日陰側かつ風上側の急傾斜の谷から尾根に向かって霧（雲）がゆっくり上昇してくる時に出現することが多い。霧のない日向側の尾根にいる人物の影が霧をスクリーンとして投影されて、霧粒によって光が散乱され、人物の影のまわりに同心円状の虹のような光の輪（光輪）となって現れる。光輪の内部は青色で外側に向かって赤みを帯びてくる。人物の動きにあわせて、光輪の中心にいる“妖怪”も動く。

湿気の多い深い谷から立ち上がり、森林限界を越えた南アルプスの稜線上は、ブロッケン現象が現れる条件が揃っている。まだ太陽が高く登らない早朝には、稜線とほぼ同一高度に“妖怪”が映し出される。写真は8月下旬の朝7時前に農鳥小屋から西農鳥岳（3051 m）に向かう登山道で観察された例で、写真下では“妖怪”の周りを2重の光輪が取り囲んでいる。

（狩野謙一）



国土地理院 地理院地図(電子国土Web)